

# 農業の新しい技術

No. 742(令和4年(2022年)6月)  
分類コード 01-14  
熊本県農林水産部

## 褐毛和種種雄牛「第二光晴」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室  
担当者：福島敬太

### 研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

### 研究の成果

1. 枝肉重量、ロース芯面積及び脂肪交雑に優れた褐毛和種種雄牛「第二光晴」を選抜した。

○血統

父	光晴重 (繁殖 152)	祖父	第十六光重(繁殖 68)	—	光重E T(育高 1)
		祖母	第3 さかえ(繁殖 16894)	—	第三光重(繁殖 29)
母	あかね☆ (繁殖 21722)	祖父	光重球磨(繁殖 91)	—	重球磨(特級 91)
		祖母	さつき☆☆(繁殖 13465)	—	第十光丸(高 76)

○登録番号：繁殖 2 2 3

○生年月日：平成 2 7 年 1 0 月 2 9 日

○生産地：阿蘇郡西原村（高橋啓）

2. 現場後代検定成績および育種価

○枝肉重量は去勢 533.8kg、雌 502.7kg と優れており、育種価 でも 48.41kg(評価種雄牛 535 頭中 12 位)と極めて高い評価となった。

○ロース芯面積は去勢 68.9cm<sup>2</sup>、雌 63.6cm<sup>2</sup> と優れており、育種価 でも 14.84 cm<sup>2</sup> (評価種雄牛 535 頭中 3 位)と極めて高い評価となった。

○BMSNo. は去勢 5.21、雌 3.80、平均では 4.84 と優れており、去勢では歴代最高の成績となった。育種価でも 2.75(評価種雄牛 535 頭中 7 位)と高い評価となった。

○SBVは枝肉重量 2.31、BMSNo. 2.45、ロース芯面積 4.10、ばらの厚さ 1.24、皮下脂肪の厚さ 1.76 となり、すべての形質について改良効果が大きいと推定される。

※SBV(標準化育種価)とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるよう加工したもの。

3. 特徴

検定成績では枝肉重量の全体平均が 500kg を超え、BMSNo. の全体平均も 4.84 と高く、「光晴重」の後継として肉量と肉質の両面で改良への貢献が期待される。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



第二光晴 (だいにみつはる)

格付け:A-5 枝重:566.0kg  
 BMS:8 ロース:91cm<sup>2</sup>  
 ばら:7.9cm 母の父:幸泉

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	BMS No.	ロース 芯面積 (cm <sup>2</sup> )	ばらの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	日齢枝肉 重量 (g)
去勢	14	533.8	5.21	68.9	8.3	2.5	698.7
雌	5	502.7	3.80	63.6	7.9	3.5	664.4
全体	19	525.6	4.84	67.5	8.2	2.8	689.6

表2 育種価(BV) (R4.2月評価)

	順位	育種価	(正確度)
枝肉重量 (kg)	12	48.41	(0.89)
BMS No.	7	2.75	(0.91)
ロース芯面積 (cm <sup>2</sup> )	3	14.84	(0.88)
ばらの厚さ (cm)	55	0.42	(0.88)
皮下脂肪の厚さ (cm)	25	-0.84	(0.91)
日齢枝肉重量 (kg/日)	11	64.16	(0.89)

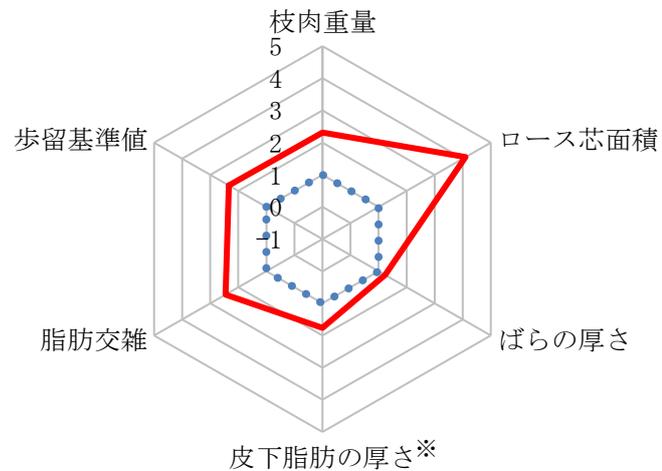


図1 SBV (標準化育種価)

※ 後代頭数20頭(フィールド成績を含む)

※ 順位は評価種雄牛535頭中の順位

※ 皮下脂肪は逆符号